

下図に触れた感想である。

2025 (R7) / 04 / 05 (土) 山形新聞



16年前、県の課長補佐職... 職員だった私は上司からパワハラを受けていました。この上司は何年にもわたり所属職員にパワハラをする人でした。幹部職員は見えて見ぬふり。一部の幹部職員は自ら先の上司にパワハラする始末です。なす術なしでした。

調査機関 設けパワハラ防ぐ

寒河江市 鈴木武雄 71歳

長期間耐えている職員が気の毒で心が痛みました。私は1年で異動し管理職になりましたが、パワハラを受けた経験がその後の人間関係や職場づくりに大きく影響しました。そこで、私が管理職になってから心がけた行動を述べたいと思います。パワハラを防ぐには、上司と所属職員が怠惰のない意見を交換するのは当然ですが、その実現のために上司がどう努力するかが重要だと思えます。私は職員の仕事の負担を軽減すればゆとりが生じ、職場の風

通しが良くなると考えました。例えば、職員の登庁が早いのは、始業前に設備の始動・点検作業や室内の温度管理、給湯の準備のためでした。これを私が引き受けました。上司が率先して早朝登庁し仕事を始めるのは訳が違います。上司が人より早く登庁し自分の仕事をするのは、当てつけと捉えられる危険性もあります。また、突発的に業務が多忙となった時は、大量に生じた作業器具の洗浄、ごみ出しも担当しました。パワハラを受けたからこそ「安心して相談できる部

山形新聞

〈2025年4月5日〉

談話室

▼「どのう」。サウナでリフレッシュし、心身が満たされた状態を指す言葉として浸透した。生みの親は「濡れ頭巾ちゃん」の名で活躍するサウナ愛好家。先の言葉が生まれたエピソードをラジオ番組で明かしていた。

▼サウナの後に仲間と食事をしていた時だ。入浴効果もあり、皆穏やかな表情で楽しんでいる。そんな多幸感に包まれていた瞬間にひらめいたのが「どのうた」。濡れ頭巾ちゃんは「サウナは人の心をのどかに、寛容にする」と語る。筆者も愛好家の一人として、賛同する。

▼「どのうなら西川」をキャッチフレーズに掲げる西川町が揺れている。菅野大志町長のパワハラ疑惑である。元職員の衣服をつかみ町長室に連れ込んだことは認め、謝罪した。「かつとなつてやった」。町長は大のサウナ愛好家を自認するが、寛容さという点ではどうか。

▼誰も働きやすい職場を目指して行動するのが本来の役割だろう。元職員からは他の訴えもあり、第三者委員会が今後調査する。一度はまれば分かるが、サウナは己の心の内面にじっくりと向き合える場所である。真のリーダーシップとは何か、そこで自問してはいかがか。

車を運転する方はよくご存知でしょうが、車のハンドルやブレーキには「あそび」が設けてあります。急激にハンドルやブレーキを操作しても、いきなり車が方向を変えたり急停止しないための「ゆとり」であり、それが車の安全性を高めています。つまり「あそび」が自動車という機械と運転する人間とのインターフェースになっているのです。(偉そうな人がよく使う説教の一言)

<https://www.philanthropy.or.jp/magazine/doteuchi/05.html>

「寛容」は陰陽二元相対(待)性原理の陽原理に従えば、「放縦」に陥る。そこで、識者は、寛容性と、振り戻す緊張・厳格との調和が大切だと言う。人間は元来、向上心と共に怠け者・横着者の両面を持つが、「ゆとり・寛容」などと称する言葉を仕事、業務、職場に安易・安直に持ち出すと、怠惰の安きに流れるのが人間の性分であり、いわゆる、手抜き・月給泥棒化するものである、これでは一部だけが得をすることになり組織の人間関係は上手く回るのか。したがって、この記事等の方便は、理屈だけの美辞麗句の範疇にあり、現場における人間関係、職場環境の醸成においては、よくよく考える必要があると思う。本当の寛容とは、二つの新聞記事の執筆者のようなことはどうでもよく、この場ではいちいち指摘しない。要は、自己主張に固執しない、上下・左右、四方八方の全方位、「ごちゃ混ぜ」を全部許す心情こそが真の「寛容」であろうと思う。

(end)